

「Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024」受賞者決定

「Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)」は、中堅アーティストを対象に、海外での展開も含め更なる飛躍を促すことを目的に、2018年度から実施している現代美術の賞です。

第4回となる「TCAA2022-2024」では野村しのぶ氏が加わり、計6名の選考委員による選考を経て、2名の受賞者を選出しました。

なお、「TCAA2022-2024」の授賞式及び受賞記念シンポジウムを3月20日(日)に開催予定です。

■ 受賞者

津田道子



Photo : 飯川雄大

Saeborg (サエボーグ)



Photo : ZIGEN

■ 授賞式及び受賞記念シンポジウム

■ 授賞式

開催日：2022年3月20日(日) 14:00-14:30

会場：東京都現代美術館 地下2階講堂(江東区三好4-1-1)

■ 受賞記念シンポジウム

開催日：2022年3月20日(日) 14:40-16:10

会場：東京都現代美術館 地下2階講堂

※入場無料・要事前申込・先着順。オンライン配信あり(予約不要)。

※日英同時通訳あり。

※申込方法や、シンポジウムの内容について等詳細は後日TCAAウェブサイトにて公開いたします。

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更等が生じる場合があります。

TCAA

Tokyo
Contemporary
Art Award
2022-2024

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース(公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当：市川、武智、水野谷

TEL: 03-5245-1142 FAX: 03-5245-1154 E-mail: press@tokyoartsandspace.jp

受賞者と受賞理由

津田道子 | TSUDA Michiko

1980年神奈川県生まれ、石川県在住

2013年東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程映像メディア学専攻修了

近年の主な展覧会に、「第10回アジア・パシフィック・トリエンナーレ」(Queensland Art Gallery and Gallery of Modern Art、ブリスベン、オーストラリア、2021)、個展「トリログ」(TARO NASU、東京、2020)、「『インター+プレイ展』第1期」(十和田市現代美術館、青森、2020)、「TOKAS Project Vol.2 『FALSE SPACES 虚現空間』」(TOKAS本郷、東京、2019)、「あいちトリエンナーレ2019 情の時代」(伊藤家住宅)、「六本木クロッシング2019展：つないでみる」(森美術館、東京)など。

受賞歴に「文化庁メディア芸術祭」アート部門 新人賞(2017)。

【受賞理由】

カメラやスクリーンが、被写体や映像を体験する観客に与える影響に関心を持ち、インスタレーションやパフォーマンスを制作してきた津田道子は、近年小津安二郎の映画におけるカメラフレーム内で「振付された」人物の動きの分析から不可視のジェンダーロールを可視化するパフォーマンス作品を展開している。ノンバーバル・ランゲージを綿密に探究する作品は、イメージであれ体の動きであれ、因習が及ぼしている範囲がいかに個に内面化されているかを想起させる。

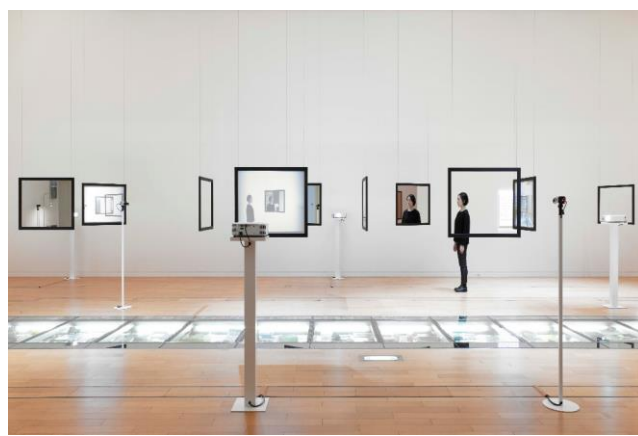
また教育の現場でもジェンダースタディや社会的な実践としての活動を行い、自分の関心に沿って作品を積み重ねながら、領域を拡大しつつ貪欲に新しい表現に挑戦している。

その芸術的実践と作品はどちらも、鑑賞者に内省と、社会における相互理解を生み出すため、個人的な変革ではなく、構造的な変化の必要性を批判的に自覚させており、改めてそれら活動を貫く関心と動機の一貫した強い制作態度が評価された。



1. 《東京仕草》2021「Back TOKYO Forth」展示風景（東京国際クルーズターミナル、2021）

Photo : Akira Arai (Nacása & Partners Inc.)



2. 《あなたは、翌日私に会いにここに戻ってくるでしょう。》2016-2020「オープン・スペース 2016 メディア・コンシャス」展示風景（NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]、東京）

Photo : 山本 糾

Saeborg (サエボーグ)

1981年富山県生まれ、東京都在住

2006年女子美術大学芸術学部絵画学科洋画専攻卒業

近年の主な展覧会に、個展「Cycle of L」(高知県立美術館、2020)、「SAEBORG: SLAUGHTERHOUSE 17」(Match Gallery、リュブリャナ、スロベニア、2019)、「あいちトリエンナーレ 2019 情の時代」(愛知県芸術劇場)、「TARO 賞 20年/20人の鬼子たち」(岡本太郎記念館、東京、2017)、「六本木アートナイト 2016」(六本木ヒルズ A/D gallery、東京)など。

受賞歴に「第17回岡本太郎現代芸術賞」岡本敏子賞(2014)。

【受賞理由】

人間以外の生命体との健全な共存可能性を探索することは、地球温暖化やポストパンデミックの時代に活動するアーティストが意識せざるをえない問題のひとつであるが、作家は人間と家畜の関係を戯画化したパフォーマンスで、屠殺やケア、命の再生産や消費にまつわる生命と感情をめぐるポリティクスを活動の初期から問いかけてきた。生と死という普遍的で「重い」主題を、玩具を連想させる鮮やかな色のラテックスのコスチュームや舞台装置で表象することで、主題の「重さ」に相反する「明るさ」や「軽さ」といった感覚を鑑賞者に与えるが、同時に動物の生命を消費財として扱う人間の無邪気な残酷さをも想起させる。彫刻としての身体やパブリックパフォーマンスを含むその作品は、象徴性、挑発、痛烈な批評、伝染性のダイナミズムに満ちている。

またボディスーツによって拘束され、不自由になったパフォーマーの身体が必然的に「ケア」されるようになるという構造をポジティブなこととして捉える視点は、社会における関係性の認識に一石を投じるものであり、強さと弱さ、支える側と支えられる側、といった固定概念を問いなおす。作家が社会的包摂活動に長くコミットし、その活動があらゆる生命を平等に尊重しようとする制作態度や作品にも強く関連づけられていることは、私たちが真の多様化を目指すにあたり、多くの人々に共有されうるものと評価した。



3. 「Cycle of L」公演風景 (高知県立美術館、2020)
Photo: 釣井泰輔



4. 「DARK MOFO 2019『Pigpen』」公演風景 (Avalon Theatre、ホバート、オーストラリア)
Photo: DARK MOFO 2019

■ 選考委員長コメント

選考委員会では、これまでアーティストのスタジオ訪問を選考の重要な判断材料のひとつとして捉えてきた。今回、TCAA チームの優れた段取りのおかげで、実際に現地を訪問した選考委員も、オンライン参加の選考委員も、作家の創作活動について総合的に把握し、理解を深めることができた。私たち選考委員は各作家の話にじっくりと耳を傾けるとともに、作品とその思考について具体的に質問した。このようなやりとりや深い関わりは、受賞が誰になるのかという最終結果を決めるための手段だけではなく、選考委員にとって有意義な学びの場となっている。また、アーティストにとっても同様であることを願う。

選考はスタジオ訪問を踏まえて慎重に検討が行われる。日本と海外いずれの選考委員も、日本の作家の作品について率直に意見を交わすとともに、異なる視点から作品を理解しようと互いに努力を重ねた。選考の議論は、結論を出すことにとどまらず、今日の変化し続ける世界情勢における芸術活動の意義について深く考えるものでもあった。

キャロル・インハ・ルー（北京中間美術館 ディレクター）

■ 本賞の概要

Tokyo Contemporary Art Award (TCAA) は、2018年に東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペースによって創設された、海外での展開も含め、更なる飛躍とポテンシャルが期待できる国内の中堅アーティストを対象とした新たな現代美術の賞です。

アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視し、受賞者の選考は、選考委員によるアーティストのリサーチやスタジオ訪問により、制作の背景や作品表現、キャリアステージへの理解を深めた上で行われます。

受賞者に対しては、海外での活動支援のほか、東京都現代美術館での展覧会およびモノグラフ（日英）の作成など、複数年に渡る継続的な支援を行います。なお、本年よりアーティストへの支援をより充実させるため、海外活動支援の充実や海外発信支援の強化などの見直しを行い、支援期間を延長しました。

【受賞者支援内容】

- 1) 賞金 300 万円
- 2) 海外での活動支援上限 200 万円（旅費、滞在費、調査・制作費等）
- 3) 展覧会実施（東京都現代美術館での展示/2023 年度末予定）
- 4) モノグラフ（作品集）の作成（上記(3)の展覧会実施後に制作）・海外発信支援

【スケジュール】



■ TCAA2022-2024 について

【選考委員】

ソフィア・ヘルナンデス・チョン・クイ（クンストインスティテュート・メリー ディレクター）
高橋瑞木（CHAT（Centre for Heritage, Arts and Textile）エグゼクティブディレクター兼チーフキュレーター）
キャロル・インハ・ルー（北京中間美術館 ディレクター）
野村しのぶ（東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター）
鷺田めるろ（十和田市現代美術館 館長）
近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター
（公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館トーキョーアーツアンドスペース事業課長）

【選考方法】

2021年6月に公募を行い、選考委員に公募者を含む候補アーティストの推薦を依頼、議論によりノミネットアーティストを選出。その後、各アーティストの事前調査、オンラインを活用したスタジオ訪問や面接など、対話による選考を経て、受賞者を決定しました。

■ これまでの TCAA 受賞者

第1回 TCAA2019-2021 風間サチコ / 下道基行
第2回 TCAA2020-2022 藤井光 / 山城知佳子
第3回 TCAA2021-2023 志賀理江子 / 竹内公太

3月19日（土）から第2回 TCAA 受賞者の藤井光と山城知佳子による、「Tokyo Contemporary Art Award 2020-2022 受賞記念展」を東京都現代美術館にて開催します。
詳細は TCAA ウェブサイトをご覧ください。